

教科	家庭	科目	保育基礎	年次	3～4	単位数	2
使用教科書 (副教材など)		保育基礎 (実教出版)					

学習目標	家庭生活と子どもの生活に関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、子どもの生活と保育に係る基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指します。 (1) 保育の意義、子どもの発達特性や生活の特徴、子どもの文化や福祉などについて、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けます。 (2) 子どもを取り巻く課題に気づき、合理的に解決する力を養います。 (3) 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、子どもとのかかわりに主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。	
評価の観点	① 知識・技術	保育に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けている。子どもの発達特性を理解し、子どもの生活にかかわる技能を身に付けている。
	② 思考・判断・表現	子どもの発達や保育の現状に関する理解を深めたうえで課題を発見し、解決を目指して思考・判断し、工夫して解決する能力を身に付けている。
	③ 主体的に学習に取り組む態度	子ども発達や保育への関心を持ち、子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価の方法	定期考査に加え、提出物（製作物、学習プリント等）、小テストの成績などで総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、思考力・判断力・表現力を総合的に評価します。	

	単元	学習内容
前期	1 保育の意義	・保育の意義と重要性について学び、保育環境が子どもの人間形成にどのように関わるかを考えます。 ・子どもにかかわる人にはどのような資質が求められるか、それを身に付けるにはどのようにしたらよいかなど考察を深めます。 ・家庭保育の現状や、集団保育の役割や保育環境の特徴を理解します。 ・子どもを取り巻く社会環境の現状と課題について理解し、子どもの健やかな発達を促す保育環境について考察します。 ・乳幼児期は発育・発達において重要な時期であること、共通性や個性といった特性があることを理解します。
	2 保育の方法	
	3 保育の環境	
	4 子どもの発達特性	
	5 子どものからだの発達	・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴を捉え、胎児期・新生児期から乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解します。 ・発達の土台としての愛着形成について学び、親子関係の形成と人間関係の広がりについて考えます。 ・知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達を捉えます。 ・子どもの心身の健康を保つための保育の基礎技術を習得します。 ・乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を、実践的な学習を通して理解します。 ・子どもの生活用品やキッズデザインについて、身体特徴を踏まえ、健やかな発育発達のためには何が必要か選択します。
	6 子どもの心の発達	
	7 子どもの生活と養護	
後期	8 生活習慣の形成	・生活習慣習得の意義と重要性を理解し、子どもの発育発達に即した習慣形成の支援について考えます。 ・健康管理や事故防止について、健康観察のポイントや子どもに多い疾病と予防接種、年齢特性による不慮の事故の実態や原因などを理解し、対策を考えます。 ・事故防止や安全な生活環境整備にはどのような配慮が必要か、具体的事例と合わせて理解し、応急手当てについて体験的に学びます。 ・絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解します。 ・子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、おもちゃ製作などの活動を通じて体験的に理解します。 ・遊びを通しての保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにします。
	9 健康管理と事故防止	
	10 子どもの文化の意義と支える場	
	11 子どもの遊びと表現活動	
	12 子ども観	・子どもに対する見方は、国や地域、時代や文化によって違いがあることを理解します。 ・権利の主体としての子どもを尊重する考え方が世界で共有されつつあることを理解します。 ・子どもの福祉に関心を持ち、児童福祉の理念と法律や制度について理解します。 ・児童憲章や児童の権利に関する条約の内容を通して児童福祉の基本的な考え方を理解し、子どもの幸せについて考えます。 ・社会全体で支える子育て支援の制度や具体的な地域の支援活動について理解します。また、子育て支援の今後の課題と展望について考えます。
	13 子どもの福祉	
	14 子育て支援	